

施策目標：

アジア大洋州地域の安定と繁栄の確保を目指し、域内諸国・地域間における未来に向けた協力関係を構築し、日本にとって望ましい国際環境を確保すること。

施策評価（総括）：

国際秩序が大きく揺らぎ、安全保障環境が一層厳しさと複雑さを増す中、アジア大洋州諸国との間で幅広い分野において重層的な関係を構築していくことは極めて重要である。特に、アジア大洋州地域の持続的な安定と力強い成長は、日本を含む、国際社会の平和と繁栄に直結する。このような観点から、地域の安定と繁栄の確保を目指して、未来志向の交流と協力を推進し、様々なレベルで域内諸国・地域との意思疎通を図ることに努めた。韓国とは、首脳・閣僚級を含む様々なレベルで意思疎通を継続し、日韓関係の良好な基調を維持した。また、令和5年には、日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議を開催したほか、令和7年の自由で開かれたインド太平洋（FOIP）と「インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）」に関する共同声明などを通じ、FOIPの推進と日ASEAN関係を更に深化させた。令和6年には、第10回太平洋・島サミット（PALM10）を開催し、太平洋島嶼国との友好関係を一層深化させた。これらを始めとした取組により、8つの分野に掲げる目標が一定程度実現され、対アジア大洋州地域外交の必要性及び有効性が確認された。よって、施策目標は妥当であり、今後も同目標を維持し、各取組を推進する。

外部有識者の所見（概要）：

- アジア大洋州地域外交は、米中競争、台湾海峡・南シナ海情勢、北朝鮮問題、経済安全保障などが複合化する中で、日本にとって望ましい国際環境を形成する基盤的施策であり、目標の妥当性は高い。二国間関係に加え、日米韓、日豪、日印、日・ASEAN、太平洋島嶼国などとの重層的協力を進めている点は評価できる。
- ASEAN外交における着実な外交努力が対日感情や対日理解促進などに結びついていること、日韓関係が難しい局面を乗り越えて「シャトル外交」が継続されるようになってきていること、日台貿易において対日食品輸入規制が撤廃されたこと、タイ・ベトナム・カンボジア・ラオスとの外交関係が進展していること（「包括的戦略的パートナーシップ」に格上げ）、日印関係が大きく拡大したこと（「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」の深化）、南西アジア諸国や大洋州諸国との外交関係が着実に進展していることなどについては外交的努力が実ったものとして高く評価される。
- アジア大洋州地域外交においては、経済や安全保障といった従来の領域に加え、公衆衛生や情報通信など発展途上の領域も含め、多層的な協力関係の構築が重要になる。ホルムズ危機を通じて顕著になったエネルギー問題による脅威認識を共有する国が多く、この問題における東アジア諸国との連携強化も課題である。近年、経済安全保障の観点からシーレーンの確保の重要性が再認識されている。マラッカ海峡の安全をめぐる東南アジア諸国との連携強化は引き続き、日本の重要な外交課題である。
- FOIP実現の要であり、AOIPとの接続を進めつつ、日・ASEAN協力を深化させている点は評価できる。今後は、AI、海洋安全保障、連結性、経済安全保障、越境犯罪対策など、ASEANの実利的関心に即した協力を具体化し、「福田ドクトリン」50周年も活用して対ASEAN外交の現代的意義を再定義する必要がある。

- 北東アジアでは、北朝鮮の核・ミサイル開発、拉致問題、日韓関係、日中関係、台湾海峡情勢が日本の安全保障に直結している。日中韓サミットの開催、北朝鮮をめぐる諸懸案事項、中国の経済面での残された課題、台湾海峡問題、重要鉱物サプライチェーンの強じん化・多角化などの難しい課題については、外交的努力のさらなる積み上げに期待したい。
- 日韓関係に関しては、現状では首脳間の「シャトル外交」はじめ友好的な関係が維持されているが、各国における政権や政局に左右されない、安定的な関係構築が課題となる。健康安全保障など、協力のパイプを拡大していくことも大きな課題である。
- 中国との間では、台湾海峡の平和と安定の重要性を明確に発信しつつ、日中関係の過度な冷却化を防ぐ危機管理外交が課題である。日中関係に関しては、目下の関係を鑑み、「関係改善」も重要な課題である。
- インドネシア、フィリピン、シンガポール、マレーシアなどとの関係は、海洋安全保障、経済連携、重要鉱物、エネルギー移行、人的交流の面で重要性を増している。経済連携協定（EPA）、看護師・介護福祉士候補者の受入れ、ミンダナオ和平支援、東ティモールのASEAN加盟支援は、日本らしい実務的貢献として評価できる。今後は、南シナ海情勢、重要鉱物サプライチェーンの強じん化、脱炭素、海洋状況把握を結びつけ、戦略性を高める必要がある。また、メコン地域では、ミャンマー問題の長期化、タイ・カンボジア衝突、特殊詐欺を含む越境犯罪など、非伝統的安全保障課題が深刻化している。今後は、ASEANとの連携を軸に、危機管理、人道支援、法執行協力を強化する必要がある。
- 豪州・ニュージーランド（NZ）との関係強化は、インド太平洋における同志国連携の中核として重要であり、日豪部隊間協力円滑化協定などを通じた安全保障協力の進展は評価できる。PALMプロセスも、日本の信頼を支える外交資産である。太平洋島嶼国では気候変動、海洋資源、開発資金、戦略的競争への対応が課題であり、豪州・NZとも連携しつつ、自律性と開発ニーズに寄り添う関与が必要である。

【参考】予算額・執行額等	区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
施策の予算額・執行額等 （分担金・拠出金除く）	予算の状況	4,078	7,081	7,950
	執行額	3,554	4,370	5,419
同（分担金・拠出金）	予算の状況	1,804	1,851	1,532
	執行額	1,804	1,821	1,523

（注）百万円単位。当初予算、補正予算、繰越し等を含む。

令和5年度ASEAN における対日世論調査結果

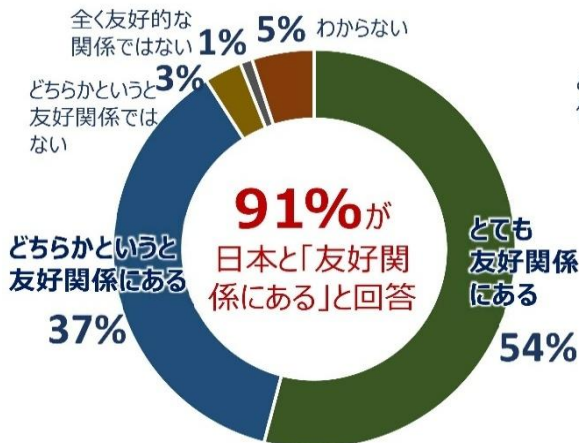
調査対象国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ラオス
 調査対象者：18歳～59歳の男女2,700名（各国300名）
 調査方法：インターネット調査・訪問面接調査
 調査期間：2023年11月-12月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2024年3月15日

I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として、今日の日本は信頼できると思うか。



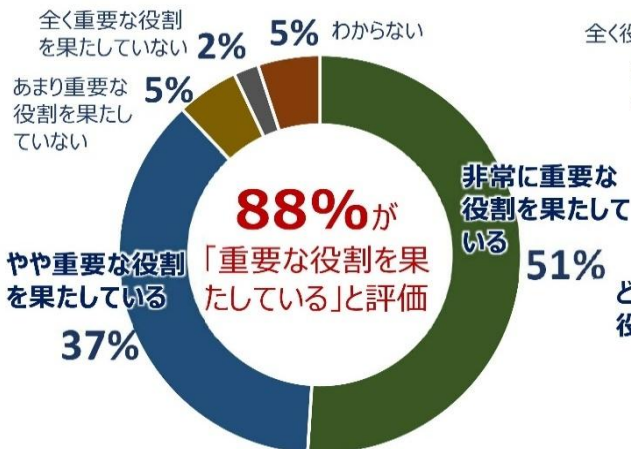
III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。



IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。

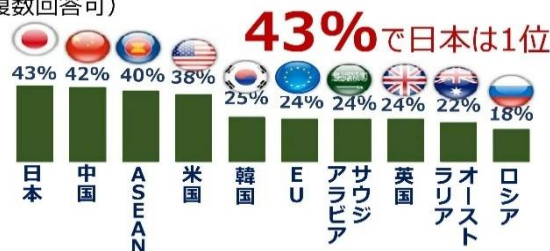


Q. 日本が地域及び国際社会の平和と安定に積極的に貢献していくのは世界の平和維持や国際秩序の安定に役立つと思うか。



V. 今後の重要なパートナー

Q. 今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちの国・機関か。（複数回答可）



VI. 最も信頼できる国・機関

Q. 最も信頼できるのは次の国・機関のうちの国・機関か。



令和5年度インドにおける 対日世論調査結果



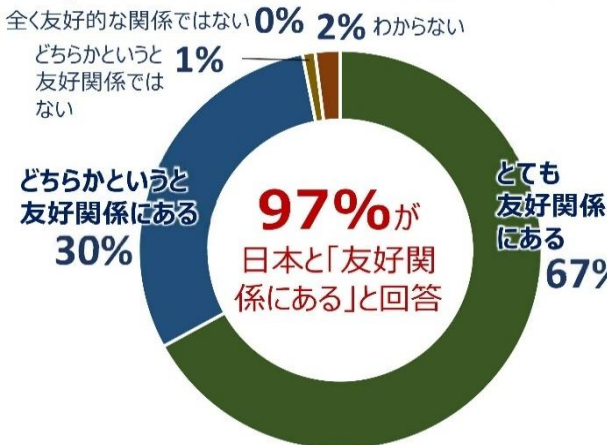
調査対象国：インド
調査対象者：18歳-69歳の男女2,200名
調査方法：インターネット調査
調査期間：2023年11月-12月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2024年3月15日

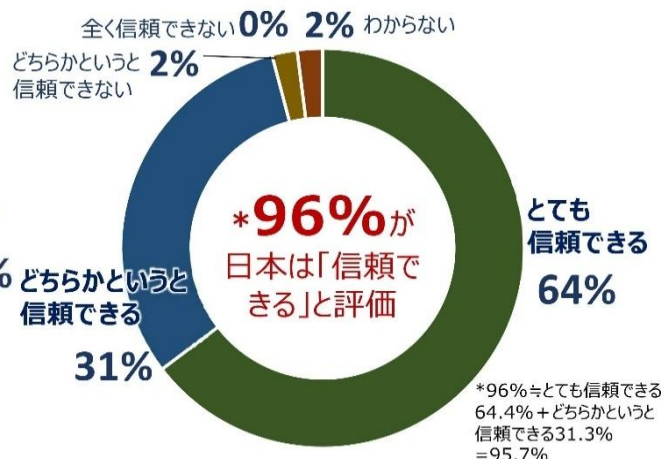
I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



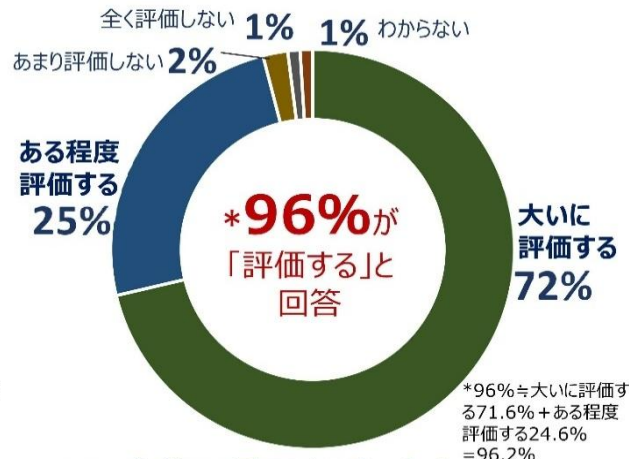
II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として、今日の日本は信頼できると思うか。



III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。

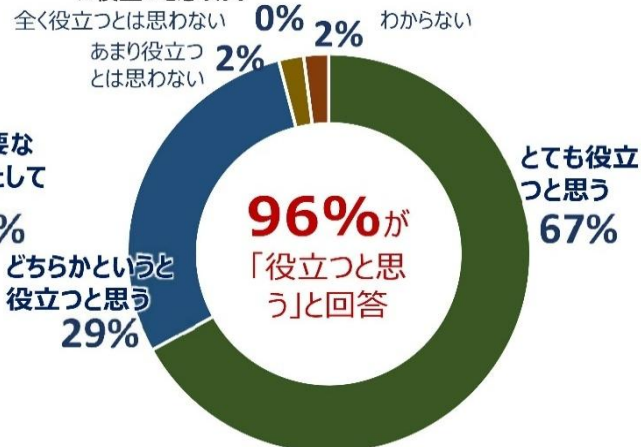


IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



Q. 日本が地域及び国際社会の平和と安定に積極的に貢献していくのは世界の平和維持や国際秩序の安定に役立つと思うか。



V. 今後の重要なパートナー

Q. 今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。（複数回答可）



令和5年度オーストラリア における対日世論調査結果



調査対象国：オーストラリア
調査対象者：18歳-69歳の男女400名
調査方法：インターネット調査
調査期間：2023年10-11月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2024年3月15日

I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として今日の日本は信頼できると思うか。



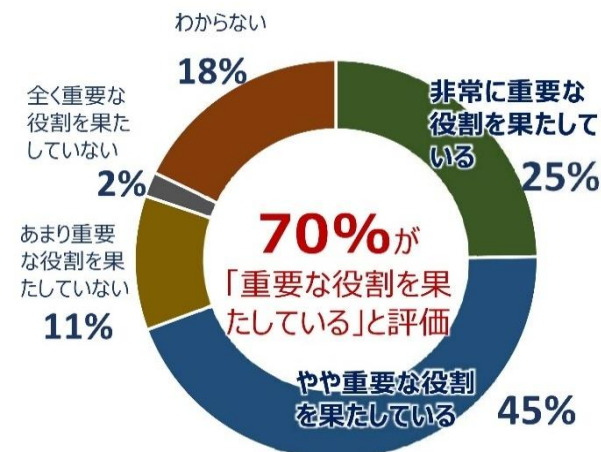
III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。

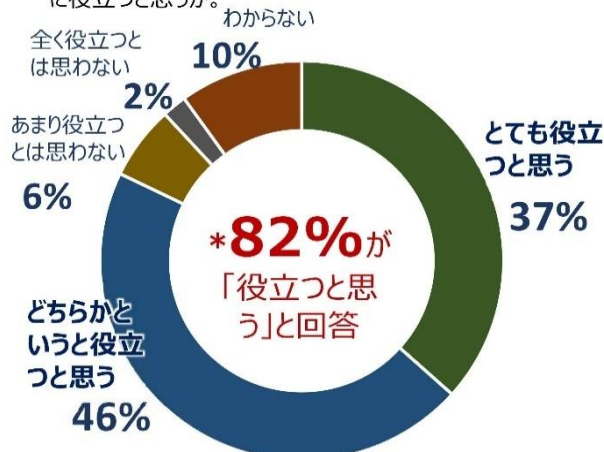


IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。

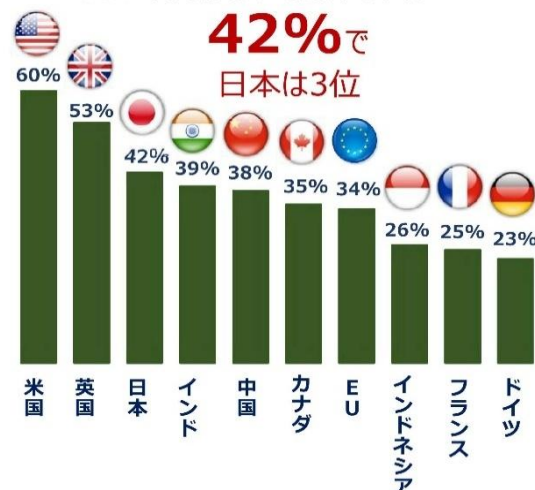


Q. 日本が地域及び国際社会の平和と安定に積極的に貢献していくのは世界の平和維持や国際秩序の安定に役立つと思うか。



V. 今後の重要なパートナー

Q. 今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。（複数回答可）



*82% = とても役立つと思う36.5% + どちらかという役立つと思う45.8% = 82.3%

令和7年度ASEAN における対日世論調査結果

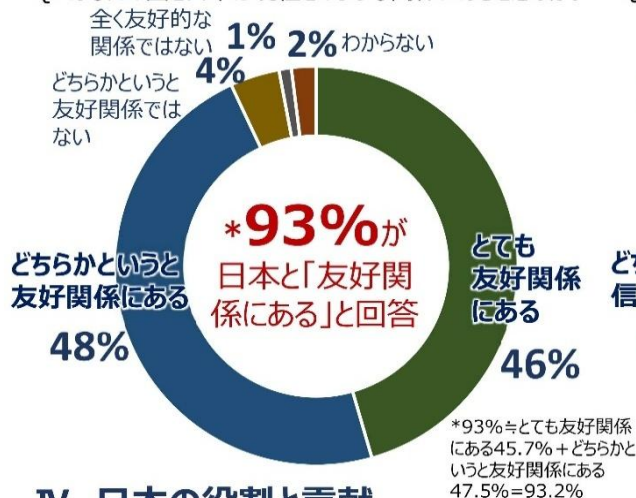
調査対象国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス
 調査対象者：18歳～59歳の男女3,000名（各国300名）
 調査方法：オンライン調査
 調査開始：2025年10月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2026年3月13日

I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



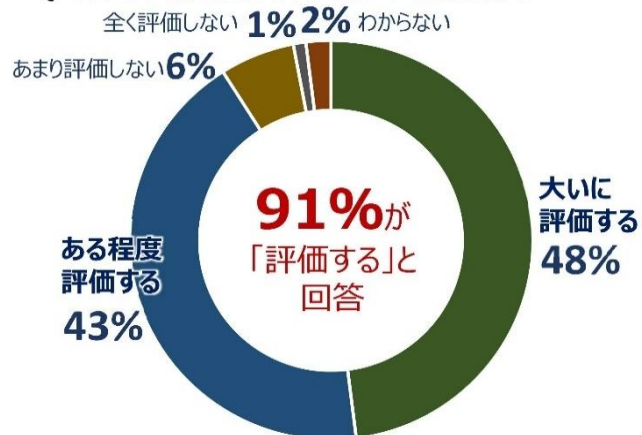
II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として、今日の日本は信頼できると思うか。



III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。

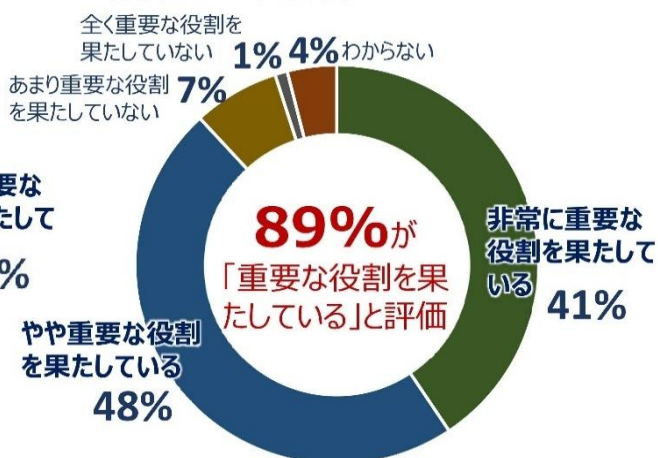


IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



Q. 日本は国際秩序の安定（含む法の支配、自由民主主義、自由貿易体制）にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



V. 今後の重要なパートナー

Q. あなたの国にとって、今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。（複数回答可）



VII. 最も信頼できる国・機関

Q. 最も信頼できるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。



令和7年度インドにおける 対日世論調査結果



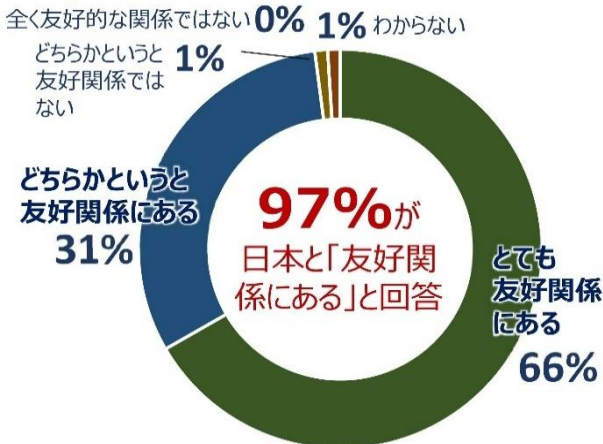
調査対象国：インド
調査対象者：18歳-69歳の男女2,200名
調査方法：オンライン調査
調査期間：2025年10月-11月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2026年3月13日

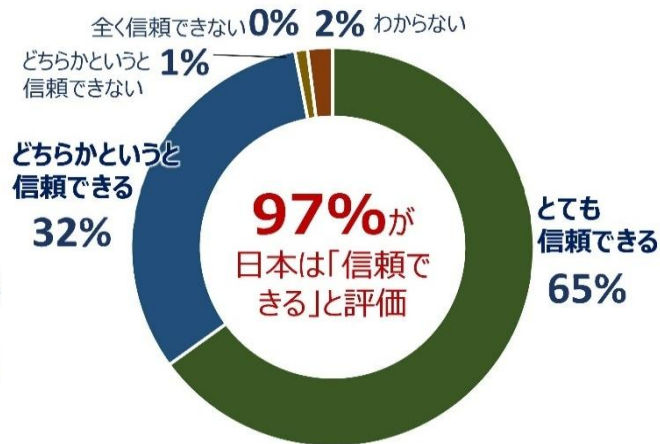
I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



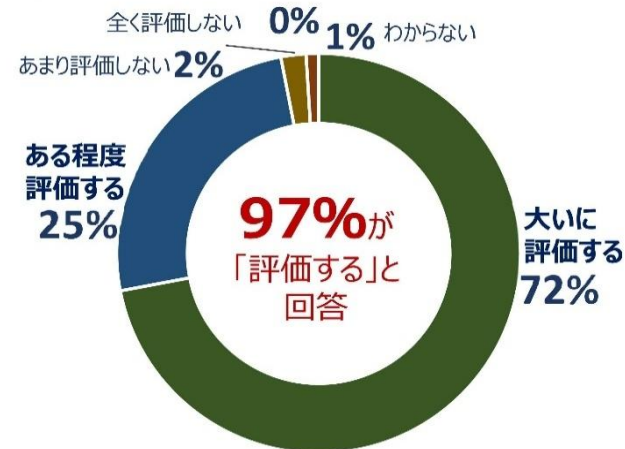
II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として、今日の日本は信頼できると思うか。



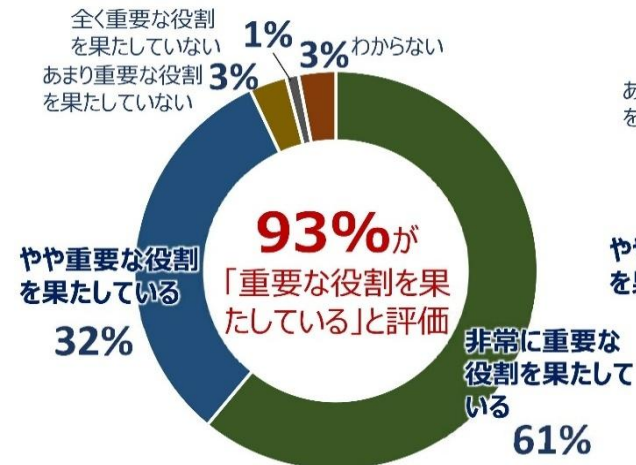
III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。



IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。

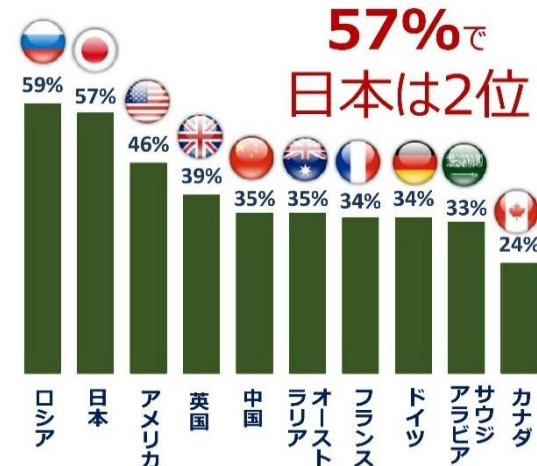


Q. 日本は国際秩序の安定（含む法の支配、自由民主主義、自由貿易体制）にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



V. 今後の重要なパートナー

Q. 今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。（複数回答可）



令和7年度オーストラリア における対日世論調査結果



調査対象国：オーストラリア
調査対象者：18歳-69歳の男女400名
調査方法：オンライン調査
調査期間：2025年10月 調査機関：Ipsos

※回答の比率は四捨五入のため合計が100%にならない場合があります。

2026年3月13日

I. 対日関係

Q. あなたの国と日本は現在どのような関係にあると思うか。



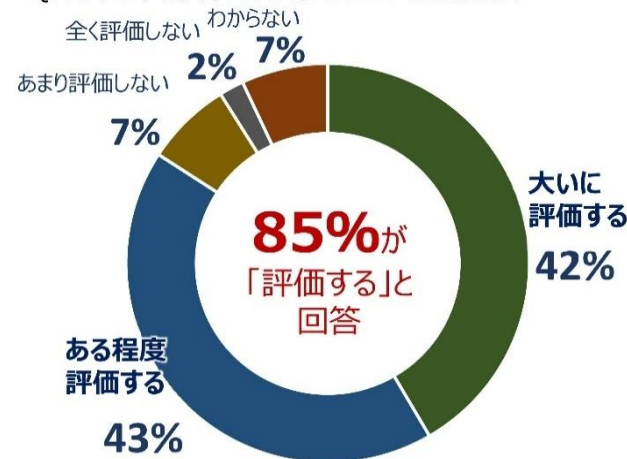
II. 信頼関係

Q. あなたの国の友邦として今日の日本は信頼できると思うか。



III. 平和国家としての日本の歩み

Q. 日本の平和国家としての歩みについてどう思うか。

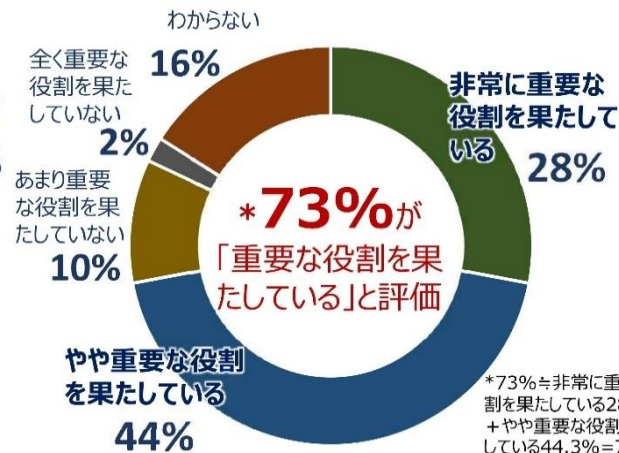


IV. 日本の役割と貢献

Q. 日本は世界経済の安定と発展にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



Q. 日本は国際秩序の安定（含む法の支配、自由民主主義、自由貿易体制）にどの程度重要な役割を果たしていると思うか。



*73%≒非常に重要な役割を果たしている28.3%
+やや重要な役割を果たしている44.3%=72.6%

V. 今後の重要なパートナー

Q. 今後重要なパートナーとなるのは次の国・機関のうちどの国・機関か。（複数回答可）

